

ブルーカーボン貯留量の自動計測

～漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み～

鳥羽商船高専

情報機械システム工学科 江崎 修央

▶ 研究概要

ブルーカーボン貯留量を自動計測するために、水中カメラを搭載した観測機により藻場を撮影、AI による藻類識別を実現する。識別した藻の種類と割り出した体積を掛け合わせ、炭素貯留量を**体積ベースで算出する仕組み**を構築する。

▶ 技術の詳細・事例

観測機や水中ドローンから得られる水中画像に対して藻類識別を実施、3D 化と合わせて、藻類別体積を割り出す。オルソモザイクを地図上にプロットすることで、海域ごとの炭素貯留量を自動算出する。



観測結果は、地図上に表示し
時系列データとして参照可能



海洋DX研究開発・導入の推進に係る産学官連携(2021年締結)

※本研究成果は、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の委託研究(22602)により得られたものである。

